

研究タイトル：ランドスケープデザイン(景観計画)と、土木を融合した建築研究、およびデザイン



氏名：	三橋 修 / MITSUHASHI Osamu	E-mail：	mitsuhashi@kochi-ct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	学士(工学)一級建築士
所属学会・協会：	日本建築学会、高知県建築士会、稲門建築学会、アジア都市環境学会		
キーワード：	ランドスケープ、ジオパーク、防災的景観、建築士養成教育、近代の歴史的建造物		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県の建築作品、景観に関する提供相談・講演など ・建築的側面からのジオパークに関する技術相談など ・建築士養成教育、及び建築家の仕事に関する相談・講演など 		

研究内容：ジオパーク、津波避難タワー、空港のある景観に関する研究・計画、建築士制度改正に伴う建築専門教育のあり方の調査・考察

◆研究概要

人に寄り添い、慈しみが求められ、環境に優しいことが求められる時代において、特に高知県での建築を介して、防災に役立ち、人・街を幸せにする具体案は何かを探求する。

◆研究テーマと成果の例

(1) 土佐清水ジオパーク認定に向けての建築的側面からの研究

令和2年度日本ジオパーク認定を獲得すべく高知県土佐清水市が活動している。高知県内東端部には、既に室戸ユネスコ世界ジオパークがあり、認定されれば相乗効果が期待される。この研究が微力ながらも一助になればと願うばかりである。(右図上:研究成果ポスター)

(2) 秋田ゆざわジオパークにおけるランドスケープの基礎調査研究-景観学習教材としてのゆざわジオかるたの試作-

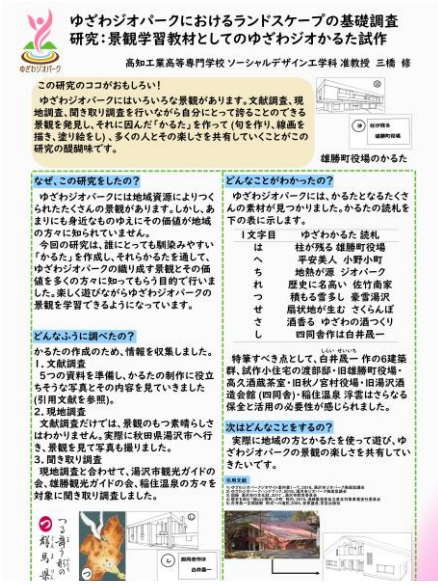
ゆざわジオパークは、火山活動がもたらした河岸段丘、扇状地、鉱物、水、地熱は、里山、植物、生物、および人々に営みをもたらしている。本研究では、ゆざわジオパークのランドスケープを調査研究して、試作されたかるたを通して景観学習に活用することも目的とする。(右図下:研究発表ポスター)

(3) 高知県における防災景観としての津波避難タワーに関する研究

高知県は静岡県に次ぐ津波避難タワーの多いエリアである。防災のために建造された200を越える津波避難タワーは、防災時には必要不可欠であるが一方、正常時における景観は人工建造物として、現状で適切化かを悉皆調査の上で考察する。

(4) 室戸ユネスコ世界ジオパークにおける防災的景観の研究

室戸市は、全域がジオパークになっているが、自然景観、および気候景観が原因で、津波や暴風雨などの災害を被ってきた。そのため、津波避難タワーが建造され、また高岡地区においては、平屋建ての屋根まで及ぶ石垣やコンクリートが街並みを構成している。これらを防災的景観と定義して、保全・復元・修理・利活用をしていく調査研究を行っている。



提供可能な設備・機器など:

名称・型番(メーカー)

方眼紙・エスキース用紙 (総合資格学院)

月刊誌「建築知識」(総合資格学院)